

臨床検査医学プログラム

【研修目標（研修内容）・到達目標】

臨床検査が診断や治療に必須のものであることは国も明言しており、その正しい理解は臨床医にとって必須のものです。プログラムでは臨床検査医として必要な専門的な能力の習得をめざします。具体的には、臨床検査（血液や尿などを対象とする検体検査と心電図などの人体・生理機能検査）に関する専門的医学知識と技能を修得し、臨床検査が安全かつ適切に実施できるよう管理し、医療上有用な検査所見を医師、患者に提供できる医師になることです。当施設は、日本臨床検査医学会認定研修施設であり、日本臨床検査医学会の定める研修プログラムにより、5年間研修を修了することで日本臨床検査医学会臨床検査専門医の受験資格（日本臨床検査医学会は専門医制度の基本領域学会の1つです）を得ることが出来ます。（2年間の初期臨床研修は5年の研修期間に含まれません。）

初期臨床研修		後期臨床研修			臨床研修修了後
卒 後 ① 年 目	卒 後 ② 年 目	卒後③年目 レジデントA （基礎的な トレーニング）	卒後④年目 レジデントB 臨床検査管理医	卒後⑤年目 レジデントC 大学院生など （サブスペシャリティ を目指すトレーニング）	卒後⑥年目以降 臨床検査専門医

【到達目標】

1. 尿定性試験、尿沈渣検体の作成とその判定が出来る
2. 血液像標本作成、Wright-Giemsa 染色が出来る
3. ABO、RhD型、不規則抗体の判定、交差適合試験が出来る
4. 血液・骨髄標本の検鏡が出来る
5. 各種検体の保存方法を理解できる
6. スパイログラム実施、評価ができる
7. 心電図（12誘導）を実施、診断できる
8. 負荷心電図の実施、判定、緊急時の対応が出来る
9. 動脈血ガス分析、実施・評価が出来る
10. 塗抹標本作成およびグラム染色が出来る
11. 培養用培地作成が出来る

【後期臨床研修（卒後3年目）カリキュラム】

日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医取得に必要な科目としての臨床検査医学（臨床病理学）総論、一般臨床検査学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学（感染症学を含む）、臨床免疫学、輸血学、生理機能検査についての基礎的なトレーニングを行います。

また日本臨床検査医学会管理医、専門医を目指す方は、日本臨床検査医学会に入会していただきます。

【卒後3年目の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、以下のいずれかのコースで、他部署研修を希望により行うことができます。

- ・総合診療センターで3ヶ月間研修するコース
- ・総合診療センターで年間を通して月2回の外来研修を行うコース

【後期臨床研修（卒後4～5年目）カリキュラム】

臨床検査医学は非常に広い学問領域と関連しています。サブスペシャリティへの習得として超音波検査、脳波、筋電図検査、呼吸器機能検査、微生物検査等のエキスパートを養成します。また日本臨床医学会等の学会発表や専門資格としては日本臨床検査医学会管理医を取得できます。また卒後5年目以降には日本臨床検査医学会専門医を習得できます。

【カンファレンス・症例検討会等】

臨床検査部内カンファレンス（月曜日17：30-18：30）

【指導医】

主任教授：小柴 賢洋（指導責任者）

准教授：宮崎 彩子

講師：正木 充

【研修統括者】

講師：正木 充

【問合せ先】

臨床検査医学：正木 充 TEL 0798-45-6860 E-mail masaki@hyo-med.ac.jp